

# 運輸車両部会

## 第31回定期委員会

7月30日、目黒さつきビル会議室において、47名の組合員の結集で第31回定期委員会を開催し、三ヶ田新部会長の体制を確立しました。

16名の委員からは、「国府津運輸区や宇都宮運輸区で行われた懲罰的な日勤教育を行う会社姿勢を許さない」「豊田運輸区のためだけに連帯強化していく」「バスに関する事故が連続発生している」など、会社姿勢に対するたたかいや安全の課題を踏まえ「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立に向けて実践する決意が述べられました。また、「輸送総合システムがリリースされたが説明もない」「議事録確認が反故にされている」「車両故障時の遅れが増大している」「相互運用が加速している」など施策実施による職場の課題や多くの委員から要員不足などの職場現実が発言

されました。安全第一の職場風土をつくることは、働く労働者の命とお客さまの命を守ることであり、一人ひとりの職場からの実践でつくり出す必要性を一致しました。運輸車両部会は、自然災害等に被災した仲間へ寄り添い、職場の業務課題の検証運動を通じて、1万人組織をめざすたたかいをつくり出していきます。



新役員体制(三役のみ・敬称略)

部会長	三ヶ田好幸	盛岡
副部会長	工藤厚	盛岡
副部会長	佃力也	大宮
事務長	伊藤千恵蔵	盛岡

# 工務部会

## 第35回定期委員会

9月2日、目黒さつきビル会議室において第35回定期委員会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス類移行を受け、昨年末までのWEBではなく、1つの会場で32名が結集し開催しました。

質疑では、8名の委員から組織再編後における職場の現状や問題点、地方ローカル線問題、モニタリングシステムや新幹線におけるスマートメンテナンスの課題、組織強化・拡大に向けた職場での実践が発言されました。

七海事務長の総括答弁では、今年に入って毎月のように事故が発生している中、皆で情報共有して仲間の命を守るための議論を進める決意を語るとともに、「安全文化と安全哲学の再構築に対する本部工務部会特別決議」を採択しました。内房線上総湊・竹岡駅間での感電死亡事故を受け、

職場からのたたかいで安全議論を巻き起こし、「不安や危険と感じたら列車を止める」「責任追及から原因究明へ」の「安全文化と安全哲学の再確立」に向けて奮闘することを確認しました。



新役員体制(三役のみ・敬称略)

部会長	杉本博輝	大宮
副部会長	七海勝彦	仙台
事務長	齊藤誠	大宮

# 営業部会

## 第36回定期委員会

9月14日、東京地本会議室に52名の組合員が結集し、第36回定期委員会を開催しました。

昨年の定期委員会以降、「命を脅かす事象」が各地で発生しており、今定期委員会においても多くの委員から「業務の融合と連携」に伴って、教育が形骸化されている「本来の駅業務よりも企画業務に傾注している安全レベルやサービスレベルの低下が著しい」「業務にやりがいが見出せず、若手社員の離職が目立っている」などの職場現実が発言されました。

また、組合員のみならず未加入者と共に検証を取り組み、組織強化・拡大を実践してきた教訓も報告されました。今後は、職場の事故・事象に対して営業部会として



新役員体制(三役のみ・敬称略)

部会長	鴨志田淳	横浜
副部会長	道又鉄人	盛岡
副部会長	武井基	大宮
副部会長	平田正広	横浜
事務長	遠藤慶宣	大宮

原因究明委員会を開催し、安全風土の再確立を通じて組織強化・拡大を進めていくことを参加者全員で確認しました。今定期委員会で18春闘以降、営業部会を先頭で牽引してきた能登部会長が勇退されました。今後は鴨志田新部会長のもと新たな体制で運動を推し進めていきます。

# きかく部会

## 代表者総会

7月29日、仙台地本会議室において、きかく部会代表者総会を開催しました。

8地方から16名が集まり、2つのスローガン「環境の変化をしっかり認識する一方で、労働密度を高める各種施策や人間労働をないがしろにする人事施策に対しては、しっかりと検証する視点を持ち『やるべきことはやる。言うべきことは言う』という旗標を掲げて経営に資する施策を担うとともに、『安全・健康・ゆとり・働きがい』のある職場づくりを目指そう」「経営に一番近いところで企画立案業務を行うとともに、訓練を通じて最前線で安全を担う、スムーズな事務手続きにより労働者が安心して働ける環境を作る、などきかく部会が担っている様々な役割を再認識し、きかく部会の旗の下に未加入者、離脱者へ呼び掛けJR東労組への再結集を勝ち取る

う！」のもと、きかく部会の旗の下に未加入者、離脱者を呼び掛けていくことを満場一致で確認しました。最後に仁戸田部会長の団結カンパローで向こう一年の活動のスタートを切りました。



新役員体制(三役のみ・敬称略)

部会長	仁戸田茂樹	八王子
副部会長	関根巖	東京
事務長	下雅意 浩明	東京

# かんり部会

## 第38回定期総会

9月11日、本部会議室において第38回定期総会を開催しました。中央本部より佐藤執行委員長を始め3名の中央執行委員、きかく部会より仁戸田部会長に参加頂き、10名の構成員による真摯な議論が行われました。

石川部会長から「目の前には壁ではなく階段。皆で手をつなぎ一段ずつ登ろう」と挨拶され、質疑では、会社の強権的な言動や、一部のかんり者による露骨な反JR東労組の姿勢を許さないこと、安全風土再確立の緊急性、JR東労組所属のかんり者としての苦悩等が発言されました。

私たち、かんり者の使命は人材育成であること、そのためには社員一人ひとりと真摯に向き合い、働きがいの創出に努めなければなりません。社友会所属の副長はそれができていない中、私たちは「質の違い」



新役員体制(三役のみ・敬称略)

部会長	石川伸也	盛岡
副部会長	山本政広	横浜
事務長	八木澤冠	大宮

を内外に示し組織の強化・拡大に向けていきます。会社の狙いは「社員化」モノ言わせぬ社員づくりにあることは明らかです。風通しの良いモノ言える職場にしていきたいです。団結カンパローでは、心あるかんり者として組織拡大の実践に向けて奮闘することを共に誓い、総会は成功に終了しました。

# 新幹線協議会

## 第5回定期委員会

9月2日、レイボックホール大宮にて第5回定期委員会を開催しました。浅沼議長挨拶では、秋田での豪雨災害や、昨年の定期委員会以降に数多くの申し入れを行い、業務課題から組織強化してきたことが語られました。また、感電死亡事故や電化柱との衝突など事故が連続発生する現実に対し、『責任追及から原因究明へ』を掲げる重要性を確認しました。

質疑では職場の問題点、特に人権無視の転勤懲戒や日勤教育など悲鳴とも言える声が多く上がりました。7月の秋田での豪雨災害では会社指示の問題点や社員に寄り添わない姿勢に対し、JR東労組として寄り添うなど組織の必要性が語られました。また、未だ不十分な女性設備の課題や、変革の名のもとに乱発される施策、「融合と連携」と言いつつも増え続ける業務量に

し、安全と仲間の命を守り続ける決意が発言されました。新幹線協議会は広いエリアであっても職場の声を大切にして「新たな施策に対する5本柱」を据え、組合員と議論を重ねながら働きやすい職場と社会の実現に向けて運動していきます。



新役員体制(三役のみ・敬称略)

議長	浅沼宏優	本部
副議長	近藤隆行	盛岡
副議長	橋本直幸	仙台
副議長	高橋孝一	本部
事務長	佐藤伸也	本部